

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成21年1月8日(2009.1.8)

【公開番号】特開2006-119311(P2006-119311A)

【公開日】平成18年5月11日(2006.5.11)

【年通号数】公開・登録公報2006-018

【出願番号】特願2004-306259(P2004-306259)

【国際特許分類】

G 0 3 G 15/16 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/16

【手続補正書】

【提出日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

トナー像を担持する像担持体と、  
前記像担持体にトナー像を形成する手段と、  
前記像担持体上のトナー像を記録材へ転写する転写手段と、を有する画像形成装置にお  
 いて、

前記転写手段に付着するトナーを静電的に除去するクリーニング手段を有し、  
 前記トナー像を形成する手段が形成可能な画像の幅を  $L_1$ 、前記転写手段の幅を  $L_2$ 、  
 前記クリーニング手段の幅を  $L_3$  とするとき、  
 $L_2 > L_3 > L_1$

を満たすことを特徴とする画像形成装置。

【請求項 2】

$L_3 - L_1 \geq 0.5$  [mm] を満たすことを特徴とする請求項 1 に記載の画像  
 形成装置。

【請求項 3】

前記クリーニング手段は、前記転写手段からトナーを静電的に回収するファークラシと  
前記ファークラシからトナーを静電的に除去するローラと、  
前記ローラからトナーを掻き取る掻き取り部材とを備え、  
前記ファークラシの幅を  $L_3$ 、前記ローラの幅を  $L_4$ 、前記掻き取り部材の幅を  $L_5$  と  
 するとき、

$L_4 > L_5 > L_3$

を満たすことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の画像形成装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

本発明は、トナー像を担持する像担持体と、前記像担持体にトナー像を形成する手段と

、前記像担持体上のトナー像を記録材へ転写する転写手段と、を有する画像形成装置において、前記転写手段に付着するトナーを静電的に除去するクリーニング手段を有し、前記トナー像を形成する手段が形成可能な画像の幅を $L_1$ 、前記転写手段の幅を $L_2$ 、前記クリーニング手段の幅を $L_3$ とするとときに、 $L_2 > L_3 > L_1$ を満たすことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

図8に示すように、掻き取り部材21は、その幅（二次転写ローラ5の幅 $L_2$ 方向の長さ） $L_5$ が静電ローラ20の幅（二次転写ローラ5の幅 $L_2$ 方向の長さ） $L_4$ よりも狭く（ $L_5 < L_4$ ）、かつ掻き取り部材21の幅 $L_5$ が静電ローラ20の幅 $L_4$ 内に収まるように配置される。これにより、掻き取り部材21が静電ローラ20に幅方向（二次転写ローラ5の幅 $L_2$ 方向）に均一の圧力で接することができる。また、掻き取り部材21は、その幅 $L_5$ がファースブラシ22の幅（二次転写ローラ5の幅 $L_2$ 方向の長さ） $L_3$ よりも広く（ $L_5 > L_3$ ）、かつファースブラシ22の幅 $L_3$ が掻き取り部材21の幅 $L_5$ 内に収まるように配置される。これにより、静電ローラ20に回収される転写残トナーを確実に掻き取り部材21で掻き落とすことができる。